

トランス脂肪酸の排除で冠動脈疾患による死亡が 2.6%回避される

英国において、加工食品へのトランス脂肪酸の使用を削減または排除する方針を打ち出した場合の健康への影響や費用対効果について、疫学的モデル研究を実施し検討した。英国の国民食事栄養調査、低所得者食事栄養調査、統計局のデータおよびその他公表されている研究のデータを用いた。25歳以上の成人を対象に、社会経済的状況で5群に層別化し、加工食品へのトランス脂肪酸の使用を完全に禁止、トランス脂肪酸に関する表示を改善、レストランやテイクアウトでのトランス脂肪酸の使用を禁止、としたそれぞれの場合の影響を調べた。その結果、加工食品へのトランス脂肪酸を完全に禁止した場合、2015～2020年の冠動脈疾患による死亡が約7,200例(2.6%)回避または延期できると試算された。また、冠動脈疾患による死亡は、社会経済的に恵まれていない階層が多いが、この不平等さが15%減少できることも示された。一方、表示の改善や外食産業での使用のみを禁止した場合は、冠動脈疾患による死亡の回避は0.7%～1.3%、不平等さの減少は3%～7%と試算され、効果は半減することが示された。また、完全禁止とした場合、社会経済的には最低でも6,400万ポンドのコスト削減となると見込まれた。

加工食品へのトランス脂肪酸の禁止により冠動脈血管死が2.6%回避できる可能性が示され、経済効果も見込まれることから、トランス脂肪酸を排除する規制方針は、英国において最も効果的で公正な政策オプションであることが示唆された。

出典：British Medical Journal. 2015; 351: h4583